

チラシ作りから  
カミリ市民との  
交流が始まりました

「ボリビアへの赴任を希望した訳ではありません。希望は聞いてくれますが、基本的には国際協力事業団が派遣先を選びます」と話す山本さんが赴任したカミリ市は、南米・ボリビア南部のかつて石油の産出で栄えた人口2万5千人ほどの都市です。

水道事情が悪く、雨季には飲料水も濁り、大腸菌などもたくさん検出されます。

山本さんが活動の中で特にやりがいを感じたのは、市民向けの公衆衛生のチラシづくりです。

「チラシの裏を利用して日本の習慣や文化、言葉などを紹介しました。無料のチラシはボリビアではあまりないようで、しだいに読者が増えて、喜ばれるようになりました。現地の職員もチラシ作りを手伝ってくれるようになり、ささやかですが、素敵な文化交流ができ、とてもうれしくなりましたね」

貧しくても心通わせる  
人間がいるだけで  
幸せなのかな

カミリ市の皆さんは、陽気で人なつっこいと山本さんは言います。



ボリビアの子どもたちと交流する山本さん

「顔が知れると、食事を出してくれたり、お茶に誘ってくれたりします。貧しく、物にも恵まれていませんが、時間に追われず、いきいきと暮らしていますよ。金銭的にも物質的にも恵まれた日本人を思うと、心通わせる人間がいるだけで幸せなはずなのについて思っています」と山本さんはカミリ市での暮らしを思い、目を細めます。「ボリビアで見た空は、忘れられませんが、どこまでも真っ青。夜には空いっぱい星が輝きます。あの空の下でカミリの人びとと心通わせたことを一生涯の思い出にしたいと思います」

青年海外協力隊への参加に合わせて、勤めていた民間企業を退職した山本さん。求職活動しながら、新たな夢をさがしています。



KIRARI

やまもと やすお  
**山本泰雄**さん(千歳町)

平成12年度3次隊青年海外協力隊員として、ボリビア(南米)のカミリ市で上下水道組合の分析室の改善や上下水道プラント建設などに携わってきた山本泰雄さんが2年間の活動を終え、この4月に帰国しました。

山本さんに、カミリ市での活動や現地での交流などについて聞きました。

満天の星のもとで、  
思い出がいっぱいで  
きました



昭和51年、登別市生まれ。27歳。  
室蘭工業大学工学部応用化学科を卒業後、2年半ほど横浜市内のプラント建設会社に勤務し、排水処理の業務に携わる。今年4月にボリビアから帰国。